

# ポートアイランドの住民に飲料水を提供する

株式会社アシックス本社

## 1 地震発生時の状況

同社では1階の防災センターに4名の警備員及び施設係員が常駐しており、地震が発生した時には、勤務している者、あるいは仮眠をとっている者がいた。地震は「ドーン」という大音響とともに始まり、その後、縦揺れ、横揺れが始まった。その時間は非常に長く感じられた。揺れがおさまったあと警備員が屋外に出ると、周囲の道路が液状化現象により「泥の海」となっており、建物の周囲は30cm程度陥没していた。

施設係員により、防災センター内の防災機器を点検した結果異常がなかった。なお、地震と同時に停電となったために自家発電設備が起動し、館内の照明が点灯した。しかし、施設内はほとんど無人であったため、自家発電設備の継続運転の必要がないと判断した施設係員により停止された。

施設内の巡回については、周囲が明るくなってから警備員が実施した。

会社の関係者からの問い合わせの電話は当初は少なかったが、時間の経過とともに多くなった。しかし、ほとんどの社員が出社出来ない状態であり、当日本社に出社できた社員は約10名程度であった。

## 2 その後の関係者の対応

地震当日の17日にポートアイランドの本社に対策本部を設置し、さらに本社の交通アクセスを考慮して19日には西神ビルに正式な対策本部を設置した。対策本部では20日の15時までに役員及び社員全員の安否を確認した。21日からは対策本部の組織が改変され、業務正常化への対策が本格化した。

会社の方針である「地域社会への貢献」対策として、市水道の断水により困窮していた島内の住民に対して、本社の水槽に残っていた水30トンを約2,000人に飲料水として提供した。同じく震災の被災者用として神戸市にスキーウェア(1,200点)、ハミガキセット、ウェットティッシュを救援物資として提供した。

なお、本社業務の本格的な再開は2月6日になってからであった。

## 3 教訓

本社、各支店等の事業所を直結したトールダイヤル(社内専用線)は断線もなく、有効に機能し相互の連絡もスムーズであった。